

ネクスト 100 市民会議からの提言書について

高岡開町 400 年記念事業の成果を検証し、新たな 100 年に向けたまちづくりの道筋を探るため、開町 400 年記念事業に関わった関係者などの市民からなる「ネクスト 100 市民会議」を設置し、市民目線で協議・検討していただきました。

このたび、下記のとおり提言書の提出を受けたところであり、今後、総合計画第 2 次基本計画の策定や平成 23 年度予算編成等につなげ、高岡新世紀のまちづくりに活かしていきます。

記

会 議 名 称	ネクスト 100 市民会議 座長：富山大学芸術文化学部 学部長 秦 正徳
提 出 日	平成 22 年 9 月 2 日（木）
提 言 書	別紙のとおり
会議開催日	第 1 回 平成 22 年 5 月 11 日（火） 第 2 回 平成 22 年 6 月 21 日（月） 第 3 回 平成 22 年 8 月 20 日（金）

提 言 書

高岡新世紀に向けて



ネクスト100 市民会議

平成 22 年 9 月

高岡新世紀に向けて

ネクスト 100 市民会議

1 開町 400 年に高岡が得たもの

昨年、高岡は開町 400 年という記念すべき年を迎え、「市民参加」と「高岡の発信」をキーワードに各地域で多彩な事業・行事が展開され、大変な盛り上がりを見せました。私たちは、この一連の取り組みをとおして、「自分たちは、やればできるんだ」という意識が芽生え、日常の生活の中に溶け込んでいた高岡の大切な資産、万葉の古に端を発し、前田文化と融合しながら生活の中で育ててきた独特の「歴史と文化」、そして高岡の町衆に脈々と受け継がれた「ものづくりの技と心」をあらためて認識するにいたりました。

これらの資産と開町 400 年を契機として結集された市民のエネルギーをもって、時代の壁を乗り越え、高岡にとっての新世紀、次の 100 年に向けた一歩に結び付けていかなければなりません。

2 高岡新世紀に向けた検証

開町 400 年の取り組みを通じて検証されたことは、これまでも高岡が「歴史と文化」を磨きながら今日に至ったということであり、高岡のまちづくりの根底には「ものづくり」として培われた進取の気概と高岡町衆の心意気が流れているということです。今後の 100 年、高岡新世紀においても、我々に求められるものは、「歴史と文化」、「ものづくりの技と心」という 2 つの大きな資産を最大限に活用し、まちづくりを進めていくということではないでしょうか。

「ものづくり」あるいは「商人のまち」として培われた進取の気概は、常により良いものを追求する探究心や向上心、既成概念にとらわれず、今までになかったものを生み出す革新性や創造性、いわばクラフトマンシップの精神であると考えます。

この精神をもって、我々の誇りである「歴史と文化」を磨きあげ、新たなページに綴っていくものを創造していくことが「まちづくり」の命題となります。

3 まちづくりへの提言

高岡新世紀の「まちづくり」の原点は、クラフトマンシップを精神的な支柱に置き、開町から 400 年の時をかけて継承されてきた高岡の「歴史と文化」を、より高みを目指して磨き、創造し、次の世代へ繋いでいくことにあります。

そして、新たな歴史と文化を切り拓き、信念と細かな気配りをもって発信していくことで、高岡を知っていただき、関わっていただくことで、市民一人一人が高岡に誇りを持つことも肝要であると考えます。

我々は、

『みんなが つなぐ 高岡の 歴史と文化』

～万葉の時代から変わらない自然景観と 匠の心が息づくものづくりのまち～
をキャッチフレーズとして、まちづくりを進め、高岡を発信していくことを提言します。

4 まちづくりの道筋

(1) まちの潜在能力(ポテンシャル)の向上に向けて

『交通結節点としてのまちづくり』

高岡市は、三大都市圏からほぼ等距離に位置し、北陸自動車道、東海北陸自動車道で結ばれています。さらに、日本海沿岸の中央に位置し、対岸諸国との国際交流にも非常に重要な役割を果たしてきた「特定重要港湾」伏木富山港を擁するなど、まさに環日本海に向けた扇の要とも言える格好のポジションにあります。

さらに、平成 26 年度に予定されている北陸新幹線の金沢までの開業により、「高岡」の利用圏域は、飛騨地域から富山県西部、能登地域に及ぶ飛越能 86 万人の地域に広がることを踏まえ、現在、駅周辺の道路網をはじめ、高速自動車道や伏木富山港へのアクセス道路の整備等が戦略的に進められています。

一方で、新幹線新駅は、現高岡駅の南約 1.5 km離れた位置に分離駅として計画されており、都市基盤整備による両駅のアクセスの強化や都市景観整備により一体感の醸成を図る施策を積極的に展開することが求められます。

そして、高岡の資産である歴史と文化を最大限に活用し、効果的に発信していくなど、高岡を訪れる方々をまちなかに誘導し、交流の機会を創出する仕掛け、広域的な連携の中で埋没しない高岡の個性を磨く戦略的なまちづくりが必要です。

さらに、環日本海、東アジアといった世界レベルでの物流ルートの中継拠点としての

地位の確立までを視野に入れ、東海北陸自動車道の4車線化等により、東海経済圏との一層の連携強化を図るなど、飛越能地域はもとより、環日本海交流の玄関口としてふさわしい魅力と機能を持ったまちになることを目指して取り組む姿勢が求められます。

『ものづくりの技と心が息づくまちづくり』

高岡のものづくりの歴史とも言える金属産業の歴史は、鉄鋳物を中心とする生活用具製造に始まり、幕末から明治期には銅器美術工芸品への転換、大正・昭和にはアルミ産業へと移行し、戦後はプラスチック産業などへ裾野を広げてきました。

このように、常に時代の行き先を読み、進取の気概をもって他に先んじて、未来を切り拓いてきたという歴史が、「ものづくり」のまちとしての高岡の文化の背景となっています。かつて日本海側随一の工業出荷額を誇った既存の「ものづくり」産業を活性化し、新たな産業を創出するなど、進取の気概をもって「ものづくり」都市としての復興を図ることが、100年後を見越したまちづくりにつながります。

そのためには、地域産業が有する技術やノウハウを研究機関や行政機関の支援策を活用しながら市のレベルで新産業に結びつける新産業創造プラットフォームを緒として、既存企業のイノベーションを強力にバックアップする取り組みも求められます。

また、地域企業の成長戦略を踏まえた新産業の創出はもとより、新たな市場開拓を誘導する取り組みや、環境、バイオ、医薬品、施設園芸といった先端産業分野の企業誘致を進めるなど、現代の産業ルネッサンスを図らなければなりません。

『歴史・文化を活かしたまちづくり』

高岡は、万葉と前田文化に代表される歴史・文化や自然景観が人々の生活の中に溶け込み、息づいています。これらをさらにブラッシュアップし、ネットワークの構築を図ることにより、観光資源としての価値が上がると考えます。観光客がいつ訪れても実物が見られる高岡御車山展示館の設置や徹底した景観づくりもその一つです。また、将来の機能拡充が期待される市民会館、博物館を中心とした新しい文化を創造するエリアの創出を目指すことが必要です。

これらの観光資源を活かし、高岡そのもののブランド化や観光資源のブランド化をとおして観光の産業化を図り、観光をまちづくりの柱とする必要があると考えます。「家持と利長のまち」として打ち出すことも効果的ではないでしょうか。

さらに、地域情報発信のノウハウを確立することで、観光客の増加につながると考えます。特に、リピーターを獲得するためには、観光ボランティアを含め市民の観光マインドの育成（市民総ガイド）により、観光客をもてなす体制をより強化することも大切です。

また、これまで脈々と引き継がれてきた歴史・文化を未来を担う子どもたちに伝えることで今後も継承していく、人づくりが重要です。

(2) まちの品質(クオリティ)の向上に向けて

『住みよい安全・安心のまちづくり』

住む人にとって、安全・安心なまちは、重要な生活基盤の一つです。富山県は自然災害が少ないとされていますが、もしもの時の避難体制の周知・徹底などの取り組みを忘れてはなりません。

さらに、高齢者にやさしいまち、高岡ならではの子育て・教育のまちづくりを進めることが、人口減少の中であって、定住人口の確保につながると考えます。

空洞化が目立つまちなかについては、中心市街地の活性化の視点から、万葉線などまちなか交通の活用により便利でエコなまち、住みよいまちとしての再生が望ましいと考えます。

『市民エネルギーを結集した交流のまちづくり』

開町 400 年では、市民のエネルギーが結集され、大きな力となり記念事業の成功につながりました。この市民エネルギーを、引き続きまちづくりに活かしていくことが肝要です。今後、北陸新幹線の開通をはじめとする高速交通網の進展に伴い、より広域な人の交流が生まれ、市民のホスピタリティも重要となります。行政と市民、企業が力を合わせ、市民一人ひとりがまちづくりの担い手として取り組んでいかなければなりません。

また、アジアの経済状況が進展する中で、東アジア沿岸地区からの増加が予測される外国人観光客への対応として、内なる国際化、多文化共生の取り組みが、今後ますます重要となります。

なお、広域的に取り組まなければならない行政課題に対応するため、周辺地区との広域連携を進め、住民福祉の向上、効率的な行財政運営に努めながら、高岡市が県西部の中核都市としての役割を果たしていくことを期待します。

5 高岡新世紀 夢プロジェクト

以上の高岡新世紀に向けた検証やまちづくりの道筋を踏まえ、自由な発想で 100 年を見据えたプロジェクトを提案します。

○古城公園 芸術の森 100 年プロジェクト

古城公園は、中心市街地にいながら、水や緑などの自然と触れ合うことのできる憩

いの場として、市民に親しまれている。今後、市民の協力も得ながら、毎年高岡銅器のブロンズ像を追加し、公園全体をミュージアムと見立てた、全国に誇る芸術の森公園とする。

○新 市民文化創造交流プレイス（ゾーン）の整備

新たな市民会館、博物館を核に、伝統と現代、世界と地域、芸術家と市民、大人と子供が交流し、新たな市民文化を生み出す創造的空間を整備する。さらに、市民会館と博物館や高岡大仏、御旅屋通りまでをつなぐ道路のプロムナード化や文化パフォーマンスのできる広場を設ける。

○市街地再生プロジェクト

既存市街地を、町家の再生や防災面での効果も期待できる「まちかど」公園の整備、市街地全体のバリアフリー化を図る。また、空き店舗等を活用し、高齢者が気軽に立ち寄ることのできるお休処を整備するなど、特に高齢者が暮らしやすい居住空間としての再構築を図る。

○中心市街地通り改造計画

中心市街地の街路に緑を増やし、彫像・立像と光や音をコラボレートするとともに、都市伝説などを活用した、ストリートごとの インスタレーションを実現する。このことにより、市民の語らい、交流と憩いの場を創出し、中心市街地に人を呼び込むようにする。

現代美術の手法の一つ。作品を単体としてではなく、展示する環境と有機的に関連づけることによって構想し、その総体を一つの芸術的空間として呈示すること。また、その空間。

○「ノン・ストレス市民の足」プロジェクト

地域交通活性化の視点から、万葉線の JR 氷見線乗り入れや南北の連携、山町筋・金屋町までの市内巡回運行を目指す。

また、全市的に デマンドバスシステムを導入し、利用しやすいコミュニティバス網等を整備することにより、市民の大切な足となるよう地域交通の利便性を高める。

基本路線の外の迂回路線を経由する路線バスの運行形態。バスの運行を管理する者に対し、利用者がデマンド(需要、要求)の手続きを行うと、バスに情報が伝えられ、希望する停留所まで迂回する。デマンドが無い場合には迂回路線を経由せずに運行する。

○高岡大仏発信プロジェクト

高岡大仏を中心に、坂下通りや御旅屋通りなどを「ごりやく通り」とする都市伝説や大仏をテーマとしたおもしろイベント等の開催などにより、与謝野晶子が「鎌倉大仏より一段と美男」と評した男前の高岡大仏を発信する。また、古城公園との一体感のある整備を進め、さらなる集客を図る。

○高岡のイメージ定着プロジェクト

国宝瑞龍寺や勝興寺、高岡大仏など高岡が誇る歴史文化資産をテーマとした新たな高岡都市伝説や、高岡七夕から連想する「出会いの聖地高岡」、万葉集から連想する「詠み人の故郷高岡」などの物語を創出し、全国に発信することにより、新しい高岡のイメージの定着を図る。

○“親水空間”再生プロジェクト

千保川を、安全性を踏まえつつ、景観、親水性に配慮した護岸を整備するとともに、屋形船や舟運（クルーズ・カヌー）、七夕流しを復活する。また、市内貫流用水を利用した親水空間を創出し、市民の憩いの場としての整備を図る。

○職人長屋小路（山町筋～金屋町）

高岡のものづくりの源流である山町筋から金屋町にかけての一带を、職人長屋としてのコンセプトで整備し、新たな観光拠点とする。併せて、その長屋で、代々受け継がれてきた職人の技を訪れた人が見学でき、また、体験できるような仕組みを工夫する。

○豊富な観光資源を活かした北陸一の観光都市の創造

高岡には、万葉から前田文化へといたる豊富な観光資源に加え、高速交通網という観光基盤が整備されている。加えて、市民全員が高岡に誇りを持ち、温かいおもてなしの心で観光客に接することにより、再び訪れたい魅力的な観光都市となる。積極的に観光立市を打ち出し、観光の産業化を図り、さらに「観光都市」を宣言し全国にアピールすることで、市民を挙げた取り組みとして、北陸一の観光都市の創造を目指す。

○お祭りランド高岡

獅子舞やみこし、祭礼など各地域の祭の継承を支援するとともに、市内全域の祭文化のデータベース化を図り、行事案内等の発信や市民サポート体制の充実を図る。ま

た、獅子舞やみこし、曳山など様々な祭礼を一度に見学・体験できるような祭りフェスティバルを開催するなど、祭りのメッカとして高岡を発信する。

○物流交流都市構想

- ・ 伏木富山港（伏木外港）を物流拠点として活かし、三大都市圏物流の集約と環日本海交流を意識し、国際貿易ターミナルやインランド・デポ（港湾、空港以外の内陸部にある貿易貨物輸送基地）の誘致を図り、その機能を高める。
- ・ 新幹線駅・現駅ゾーンを、国内の交流拠点として一体整備を図り、アウトレットモール誘致、物販・飲食・サービス施設の計画的な誘導を図るとともに、歩行系回遊性を確保し、公園、オープンスペースに配慮した都市景観として整備を進めていく。

○「ものづくり」を基盤とした新産業の創出

高岡のものづくりを支えてきた非鉄金属、金属産業の産業技術を活かし、これから成長が見込まれる環境産業や薬業県を活かした医薬品・バイオなどの先端産業、農産物の工場生産など、新産業の創出を積極的に支援することで、日本海側随一の工業出荷額を目指す。

○一流アスリート養成・輩出プロジェクト

将来のオリンピックやワールドカップ出場選手を育てるため、幼少期からのトップアスリート養成クラブの設置や拠点施設などを整備する。また、市内の高校が甲子園等全国大会で優勝することを目指し、指導者の育成や技術力強化を図るなどのスポーツ施策に取り組む。

○24 時間子育て安心プロジェクト

お泊まり保育をはじめ、市内の病院間の連携を図り、休日・夜間の子どもの変調などにいつでも対応できる 24 時間安心医療などのシステムを構築することにより、安心して子育てすることができる体制を整備する。

○元気 100 歳 健康長寿のまち

健康長寿のまちとして、元気な 100 歳がたくさんいるまちを目指す。

バリアフリー化などの高齢者に優しいまちづくりを進めるとともに、24 時間安心医療を含め様々な健康づくり施策に取り組み、心豊かで満足できる生涯現役を実現させる。

○多言語交流タウン高岡プロジェクト

外国人観光客の増加に対応するためのコンシェルジュの取り組み、英・伯・中・韓・露の相談対応が可能なホテル、病院、食事処、販売店等を増やし、店頭表示化を図る。併せて、国際的な人材を養成するため、市内の高校や中学などで、多言語教育をはじめとする国際化の取り組みを進め、多言語交流タウン高岡として発信する。

このような夢のあるプロジェクトが進められ、高岡が 100 年後も北陸地域のみならず世界できらりと輝くまちとして、未来の市民が高岡に限りない誇りを持って暮らすまちとなることを心から願っています。

ネクスト400市民会議メンバー

平成22年8月20日現在 (50音順)

	氏名	団体名 所属名
1	穴田 甚朗	高岡市農業協同組合 代表理事組合長
2	石浦 秀幸	高岡商工会議所青年部 会長
3	川田 正信	高岡市連合自治会 前会長
4	朽木 勝宣	JR高岡駅 駅長
5	島次 富	大滝地区自治会連絡協議会 会長
6	下村 誠	高岡法科大学 准教授
7	杉山 喜重子	高岡市観光ガイドボランティアグループ「あいの風」代表
8	高島 美奈子	(株)富山県人社 取締役
9	高田 憲弘	高岡市商工会青年部 部長
10	高柳 卓三	高岡商工会議所 副会頭
11	玉井 晶夫	万葉集全20巻朗唱の会にいざなう会 会長
12	辻 やす子	地域女性ネット高岡 会長
13	富田 昇太郎	ホクセイプロダクション(株) 代表取締役
14	秦 正徳 (座長)	富山大学芸術文化学部 学部長
15	開 章夫	(社)高岡青年会議所 理事長
16	細呂木 六良	高岡市芸術文化団体協議会 会長
17	宮脇 茂實	中越パルプ工業(株) 高岡工場長
18	山達 是人	高岡商工会議所 専務理事

印は、開町400年記念事業実行委員会常任委員会委員であった方